

伊丹市養護教諭部研究会グループ研究会

A班グループ員：	宮崎 奈津子 (伊丹小学校) 石川 美由紀 (稲野小学校) 川野上 涼子 (南小学校) 中谷 孝子 (緑丘小学校)	北畑 早貴 (伊丹小学校) 笠谷 はるか (南小学校) 安部 梓 (神津小学校)
B班グループ員：	福井 千栄 (桜台小学校) 衣笠 和子 (天神川小学校) 篠崎 葉子 (瑞穂小学校) 升井 嘉澄 (花里小学校)	富岡 美佐子 (天神川小学校) 内藤 久理子 (笹原小学校) 岡本 尚美 (有岡小学校)
C班グループ員：	片山 美奈 (昆陽里小学校) 高吉 有紀子 (鈴原小学校) 大西 郁美 (池尻小学校) 三好 由紀子 (伊丹特別支援学校)	大森 明美 (摂陽小学校) 小林 理加 (荻野小学校) 松田 弥生 (鴻池小学校)
D班グループ員：	小山 真由子 (東中学校) フォス 智恵美 (南中学校) 田中 淑子 (天王寺川中学校) 鶴川 由佳子 (松崎中学校) 大下 由貴 (笹原中学校) 田原 亜依 (伊丹高等学校)	村田 成江 (西中学校) 村井 仁美 (北中学校) 大久保 佑紀 (天王寺川中学校) 大村 由布子 (荒牧中学校) 山中 美里 (伊丹高等学校)

担当指導主事：奥野 隆哉

キーワード：養護教諭の役割 情報交換 救急体制 保健管理 保健指導 安全

1 実施概要

実施月日	講師等	場所・形態	演題（またはテーマ）
5月27日（月）		総合教育センター3階多目的室 全体研修・班別研究	グループ研の運営について 各班別研究テーマ検討
6月26日（水）		総合教育センター3階多目的室 全体研修・班別研究	健康診断・えがおNETについて テーマ別班別研究
7月5日（金）		総合教育センター3階多目的室 班別研究	テーマ別班別研究
7月23日（火）	兵庫県立尼崎総合医療センター 西内 辰也医師 山上 雄司医師	総合教育センター3階多目的室 班別研究・講演	テーマ別班別研究 講演 演題「救急救命について」
8月29日（木）		総合教育センター3階多目的室 全体研修・班別研究	健康診断について テーマ別班別研究
9月12日（木）		総合教育センター3階多目的室 全体研修・班別研究	各種研修会参加報告・えがおNETについて・テーマ別班別研究
10月7日（月）		総合教育センター3階多目的室 全体研修・班別研究	伊丹市養護教諭研究協議会について・テーマ別班別研究
11月15日（金）		総合教育センター3階多目的室 全体研修・班別研究	伊丹市養護教諭研究協議会健康診断について テーマ別班別研究

12月6日(金)		総合教育センター3階多目的室 全体研修・班別研究	来年度の研修について テーマ別班別研究
1月8日(水)		総合教育センター3階多目的室 全体研修・班別研究	テーマ別班別研究
1月21日(火)		総合教育センター3階多目的室 全体研修・班別研究	来年度のグループ研運営について、えがお NET について、テーマ別班別研究
2月4日(火)		総合教育センター5階ワークステーション 班別研究	テーマ別班別研究
3月23日(月)		総合教育センター3階多目的室 全体研修	来年度のグループ研運営・組織について、健康診断について

2 主な内容

(1) 研究テーマ 「養護教諭の役割と機能を考える」

(2) 全体会

兵庫県養護教諭研究会連盟、伊丹市学校保健会、伊丹市健康診断検討委員会、伊丹市アレルギー対策委員会の協議事項や連絡事項について共通理解を図った。

また、健康相談活動、健康教育、保健室経営などについて情報交換を行った。

(3) 班別研究

① A班(小学校)

ア 研究テーマ:「熱中症における対応の充実を目指して」

イ 内容

近年は、日常生活においても熱中症の発生が増加している。体温調節機能がまだ十分に発達していない幼児や小児は、成人よりも熱中症リスクが高く、さらに注意が必要である。学校現場でも、教職員ひとりひとりが熱中症の正しい知識を持ち、適切に対応できるようになるだけでなく、発症を予防できるようになることを目的として、校内研修資料の作成に取り組んだ。

ウ 成果

熱中症について調べるにあたり、様々な機関が啓発を行っていることを改めて知り、これらの機関から提供される最新情報を随時学校現場で活用していくことが必要だと感じた。事故発生時に誰でも対応できるようフローチャートを作成できたほか、参加型の校内研修になるよう工夫した資料も作成できた。

② B班(小学校)

ア 研究テーマ:「宿泊行事前の健康調査と To Do List について～part②～」

イ 内容

前年度作成した健康調査や To Do List を実際に使用してもらい、対象学年にアンケート調査を行った。また、宿泊行事の振り返りを行い、アンケート結果と照らし合わせることで、宿泊時の健康に関する情報を明確に収集できるよう様式を変更し、保護者が分かりやすい記入例や、担当がチェックしやすいポイントを押さえた様式を加えて作成した。

ウ 成果

今年度からメンバーも入れ変わり、新たな視点とアンケート調査結果から学年の意見を取り入れ、項目の追加や記入欄の工夫を行うことで、健康面の情報収集や対応を、引率者全員、保護者、医療機関で共有できる様式ができた。

③ C班(小学校・特別支援学校)

ア 研究テーマ:「健康で安全な学校をめざして～校内のケガを減らす取組～」

イ 内容

(ア) 校内けがマップを作成し、ケガをした場所にシールを貼り、予防に繋がるコメントを入れ

た。

- (イ) 各校の使用している記録用紙を持ち寄り、それをもとに見直しを行った。
- (ウ) 事故事例やヒヤリ・ハット事例を共有した。
- (エ) 校内けがマップやケガの状況、ヒヤリ・ハット事例をもとに、学級指導や保健指導による働きかけを行った。

ウ 成果

- (ア) 各校で児童のケガ予防に対する意識を高める取り組みができた。
- (イ) 事例研究を行うことにより、ケガを減らすための校内環境改善への工夫を話し合えた。

④ D班(中学校・高等学校)

ア 研究テーマ:「運動器健診とスポーツ障害の調査から考える健康」

イ 内容

- (ア) 運動器健診の概要
- (イ) 平成 31 年度(2019 年度)「運動器健診結果」の調査
- (ウ) 平成 30 年度(2018 年度)・31 年度(2019 年度)「運動器健診における受診結果の調査」
- (エ) スポーツ障害の概要
- (オ) 平成 30 年度(2018 年度)「学校管理下におけるスポーツ障害」の調査

ウ 成果

運動器健診の結果をまとめ、実態を把握した。また、スポーツ障害の分析結果から、運動過多だけではなく、基礎体力の少なさも生徒が抱える健康課題であるとわかったため、今後の指導等を考えるきっかけとなった。

(4) 夏季研修会

日時 令和元年 7 月 23 日(火) 13:30~16:30

内容 講演 演題 「救命救急について」

講師 兵庫県立尼崎総合医療センター ER 総合診療科 部長 西内 辰也 医師
兵庫県立尼崎総合医療センター 小児救急集中治療科 医長 山上 雄司 医師

(5) 伊丹市養護教諭研究協議会

日時 令和 2 年 2 月 12 日(水) 13:30~16:45

内容 研究経過報告

講演 演題 「起立性調節障害(OD)とは?
~もう「怠け病」なんて言わないで~」

講師 えがおのこども しもたけクリニック 下竹 敦哉 医師

3 成果と課題

(1) 成果

- ① 全体会では、情報交換を通して課題の共通理解をすることで、各学校で適切に対応していくことができた。健康診断の実施方法について各校の実態を踏まえた意見交換を行ったことで、子どもたちの人権にも配慮した健康診断が進められるよう、準備検討を進めていくことができた。
- ② 班別研究では、救急体制・保健管理・保健指導の観点から、養護教諭の専門性を活かした取り組みができた。
- ③ 研究協議会を開催することにより校種を超えて問題意識を共有し、さらに研究を深めることができた。
- ④ 講演会では、具体的な救命救急処置を学ぶとともに、学校における救急体制を個人レベルから教職員の組織力向上のためのシミュレーション研修のあり方を学んだ。さらに、災害時におけるトリアージについての知識も得ることができた。

(2) 課題

- ① 市内小中学校において、えがお NET で保健室に係るデータ管理を行うことが可能になったが、

受診勧告にかかわる伊丹市仕様への設定や書式変更の作業を行っているのは、担当の養護教諭であり、作業は本グループ研究会とは別の時間を当てているのが現状である。今後、市内の養護教諭が各校で有効にデータ活用をすることができるようにするためには、継続した研修が必須となる。さらに、システムの不具合やトラブル発生時の対応等、伊丹市としての保健データの管理システムが確立されなければ、公簿である健康診断票へのデータ移行は困難な状況であるなど、対応課題は多い。

- ② 研究で取り組んだ内容について、家庭や関係機関との連携や、校内体制を整備する必要がある。時代の流れとともに変化する児童・生徒の健康課題を的確に把握し、柔軟に対応していくことができるよう研修・研究をすすめながら実践を重ね、養護教諭としての力量を高めていきたい。